



「福祉の里」で働く職員の皆さんの声



漆畑 建祐さん

妻の出産後、2カ月間育児休業を取得しました。妻の妊娠を上司に報告した時に「育休を取得しますか？」と聞かれ、その時は取得することは全く考えていませんでしたが、産まれてくる子どもが双子ということもあり、妻と相談し育休を取得しました。周りの職員も同じように家庭を持っている人が多いので、育休取得にも理解がありました。今後、周りの男性職員などにもぜひ育休取得を勧めたいです。



小川 まり子さん

1人目と2人目の出産時、それぞれ1年間育児休業を取得しました。1人目の出産後、育児休業中に職場で復帰前の研修を受けました。実際に現場に出て利用者の髪の毛をドライヤーで乾かすなど、普段の業務さながらの研修をしたため、復帰も比較的スムーズにできました。復帰後、子どもが急な病気になった時などは、子の看護休暇も利用しています。周りの職員も子育てに対する理解があるため、休暇も取得しやすい環境でありたいです。

ホットな一句



奈生美

■インタビューを終えて

みんな「お互いさま」の精神！取材のために職場を訪れて感じたのはこの一言でした。

インタビューをした皆さんのお話を聞いていて、職員がお互いを支え合っている姿が伝わってきました。環境や制度が整っていても、それを実現できる職場でなければ「働き方改革」にはつながりません。理事長はじめ、職員の皆さんの思いやりや配慮の心が、職場のチーム

◆編集後記

仕事も家庭も、相手を思いやり支え合うことが大切。両立支援はみんなで協力し合ってできることですね。(U)

介護業界はまだ縁遠いですが、一歩一歩踏み出すことで我が道を開けると確信しています。(K)

若い人たちがたくさんの子どもの産み育てられる国であることを願っています。みんなで頑張り助け合いましょう。(S)

妊娠中から、育児、介護などに対して職場に理解があると、安心して働くことができますね。(S)

今は父親が育児をできない環境ではなくなっています。後悔しないように子育てを楽しんでほしいです。(N)

母がショートステイで老人ホームにお世話になり、ヘルパーさんのありがたみを感じ感謝、感謝！お仕事もご家族も大切に、ずっと働いてほしいです。(F)

編集 十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員 漆沼優美

花、木村奈生美、笹森栄子、新藤幸子、中野渡明美、深谷淳子

発行 総務課広報男女参画係

☎0170702

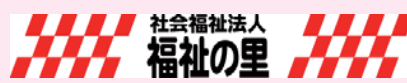
年齢や性別に関係なく働きやすい職場づくりへ

仕事と家庭の両立支援を



十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員によるコーナーです

Interview



理事長 山本 孝司
所在地 大字切田字横道 100 番地 22
会社概要
平成5年 設立
平成6年 介護老人保健施設「みのり苑」開設
その後、十和田市、野辺地町を拠点に介護老人保健施設、ケアハウス、グループホーム、在宅介護支援センターなどを展開
職員数 324人(平成30年8月1日現在)



Q 雇用環境整備のために、どのような取り組みをしていますか？

A 妊婦職員に対する配慮(業務配置など)や子育てしている職員への短時間勤務・時差出勤・夜勤削減などに取り組んでいます。また、各種休暇(子の看護休暇・配偶者出産休暇など)の取得促進をしています。若年層の人材確保、定着のためには、資格取得のための支援(試験のための受験料の負担)や急な出費があった時などに無利子で貸し付けを

男女問わず全ての労働者が働きやすい環境をつくる「働き方改革」が推進されています。労働者の結婚や子育てなど家庭も支援し、多様で柔軟な働き方を選択できる社会の実現に向けた取り組みの一つです。今号は、あおり働き方改革推進企業に認定され、働きやすい職場づくりを実践している「社会福祉法人福祉の里」の取り組みについて人事部にお話を伺いました。

行う制度も整備しています。職員の体調管理のために、インフルエンザ予防接種代の全額負担や職場内で健康診断を行うなどの配慮もしています。

Q 育児、介護をしている職員へはどのような支援をしていますか？

A 育児休業取得者が仕事へ復帰する前に、復帰前の研修を行っています。2・3回程度職場に来て、実際に現場で介護の仕事を実践したり、職員とのコミュニケーションを図ったりしながら、仕事と育児が両立できるように支援しています。また、休業中でも定期的に社内報などを送付して、職場の出来事や雰囲気伝えるようにしています。介護休暇を取得している職員は現在いませんが、いつでも受け入れられるような体制を整えています。

Q 社員のために行っている取り組みはありますか？

A 5歳〜小学生くらいの子どもの持つ職員を対象に、社内で親子英会話教室を行っています。これは、常日

「ゆっパル」の由来
この地方の方言で「結ぶ」という意味の「ゆっばる」と、英語で「仲間・友だち」という意味の「パル」からできています。「一人ひとりの思いが結びついて仲間をつくる」という願いが込められています。

Q 今後の課題、新たに取り組みたいことなどはありますか？

A 介護業界は離職率が高いため、それがきっかけで、子育てや介護に関する制度を充実させるようになりました。今後は高齢化が進み、介護休暇取得者が増えることが予想されるので、その時の職員とその家族への支援をより考えていかなければいけないと思っています。

また、インターンシップ(職業体験)やボランティア活動などを通して、介護職の良さを若い世代へアピールし、介護業界の人材育成につなげていきたいです。